



特定非営利活動法人日本防災士会・富山県支部

富山県防災士会会報

第 19 号

平成 29 年 10 月 1 日
発行 富山県防災士会
連絡先 090-9762-8267
(事務局長：佐伯)

平成 29 年度日本防災士会 北信越支部 連絡協議会総会・研修会開催

日本防災士会松尾理事長をお迎えし、平成 29 年度日本防災士会北信越支部連絡協議会の役員会・総会・研修会が、7 月 22 日に開催されました。



新潟県支部より平成 28 年度の活動報告・決算報告がおこなわれた後、役員改選の提案、平成 29 年度活動計画・予算計画が富山県支部より提案されました。全ての議案は報告・提案通り承認され、下記事項について 29 年度中に検討することを申し合わせました。

1. 会計通帳の取り扱いについての検討
2. 幹事県の任期について（任期を 2 年にしては）
3. 北信越支部連絡協議会でも災害発生時の相互災害支援体制をつくる必要性
4. 北信越支部連絡協議会を北陸支部連絡協議会とする規約の改正について

午後からの研修会では、新潟・石川・福井支部の役員その他、富山県支部より会員 50 名の参加がありました。



最初に、公益財団法人 YMC A 代表理事松田誠一氏による「災害に学ぶボランティアのあり方～富山型避難所運営の提案」と題して講演頂きました。その後、新潟県支部事務局長尾身誠司氏による「地区防災計画の推進～新潟県十日町の現状」と題して講演があり、「地区防災計画の作成」をテーマにワークショップを実施しました。



防災士の方々からの色々な意見ののち、取りまとめの発表がされ、地区防災計画を策定するときの基本項目について学びました。（記 島崎）



29 年度各行政の総合防災訓練への参加について ～ 射水市 ～

各行政の総合防災訓練が実施されています。射水市の取り組みを以下に紹介します。

平成 29 年 8 月 20 日、射水市大江地区において射水市総合防災訓練が実施されました。30 機関 400 人の参加があり、各機関団体は日頃の訓練の確認をしながら取り組み、富山県防災士会においても、射水市防災士連絡協議会のブースと連携しながら地域住民の皆さんと有意義な訓練を実施しました。訓練の途中、射水市長、及び市議会議長がブースを巡視され、新聞紙でのスリッパ作りに挑戦しておられました。正午から閉会式が行われ、富山県防災士会を含む各団体がグラウンドに整列し、市長から



は今後も自然災害が多発する可能性が高いため、行政と地域住民が一体となって防災減災に取り組むよう協力をして欲しいとの要請がありました。

（記 大坪）

「防災士のための研修会」第 3 回に参加して

「第 3 回防災士のための研修会」が 7 月 8 日に開催されました。まず佐伯事務局長から、防災講座での著作物について、ルールを守り出所、引用のチェックをすること。続いて野田副会長から（逃げ遅れを出さない）避難の対応や、富山県に起こりうる地震、風水害などの災害に、いかに早く準備をし、情報を集めて避難するか説明があったほか、発災時は自分が被害に遭うとは思いたくない心理が働くから避難率も低い傾向があることなどを学びました。会場には福井県防災士会の片山事務局長も参加されていました。（記 山田）

富山県防災士会は特定非営利活動法人 NPO を申請します

現在、理事会では NPO の申請準備をしています。任意団体から NPO に変更する目的は、法人格を得ることにより、市民が行う自由な社会貢献活動の健全な発展を促進し、公益の増進に寄与することにあります。同時に、地域防災力の向上を目指す富山県防災士会の活動基盤を強化することです。

そのために、持続的な事業の展開、財政的な独立性、財務をはじめとする諸情報の開示、事務局体制の強化をめざしています。（記 事務局佐伯）

会員
自己紹介

防災士 古木健二（南砺市）

防災士の認証は平成23年3月です。退職後、親から引継いだ小さな田で、稲作と畑作を行い生活しています。近年は農業大型化との狭間で揺れています。自然からたくさんの恩恵を受けて生きており、日々感謝する毎日です。また、天気とにらめっこの毎日ですが、最近の天気は昔と違うことを肌で感じています。異常な高温、異常な降雨や洪水、今までと違う台風、雪の少ない冬、頻発する地震・・・自然が活性期にいる証。その力に畏敬の念を抱かざるをえません。防災士の講義を受けているとき、自然という強大なパワーに、人間が智慧を絞り、力を合わせて立ち向かう姿がイメージされ、血沸き肉躍る思いをしました。「天災は忘れたころにやってくる」地震、津波、台風、洪水、土砂崩れなどから、命を守る方法を「学び」、「備え」、「将来に伝える」ことが必要だと考えます。



（写真の後ろの家は隣の家です）

DIG・HUGの講師養成講座を開催

平成29年6月17日、富山県広域消防防災センターでの「DIG・HUGの講師養成講座」に参加しました。講師を自分でおこなうときの「こつ」が非常にわかりやすい講習でした。上手に進めるための成功のポイントは4つで、「やり方よりも、仕組みを理解する」「参加者の立場で分かりやすいように」「事前準備は全体の8割」「まずははっきりと大声で」ということです。中でも事前準備が大切であると思いました。訓練対象となるコミュニティは何のためにDIG・HUGを行うのか（目的）、実施後にどこに向かっていくのか（全体計画の中での位置づけ）、参加者のプロフィール（立場とスキルレベル）、最後に協力防災士との情報共有（事前ミーティング）です。以上の事前準備



講師の堀内防災士

と確認を大切にしたいと思います。「段取り八分」とはよく言ったものです。終わってから「よかったよ」の一言をいただきたいものです。

（記 江尻）

今後の予定

■女性防災士のつどい

10月15日（日）サンシップとやま 13:30～16:30
ふたつの大震災を体験して…兵庫県防災士会東滝弘子氏
ワールド・カフェ…災害がおきたら私たち女性防災士にな
りが出来るのか等。女性防災士のみなさんご参加を。

■NPO 法人富山県防災士会 設立臨時総会

11月11日（土）サンシップとやま 13:30～16:00

富山シティエフエムでの防災啓発活動について

富山シティエフエムは、平成9年に県内で2番目に開局したコミュニティFM放送局です。富山県防災士会は、平成23年から「ラジオでいっぷく」や「スマイル」の番組を通じて防災啓発活動を行っていましたが、平成28年4月から防災番組「防災コミュニティ」がスタートしたことから、現在は2週毎のレギュラー出演です。防災に対しての自分の思いを述べるよい機会でもあるので、今後も多くの防災士に出演していただきたいと思ひます。放送の内容は、富山シティエフエムのホームページ「番組アーカイブ（防災コミュニティ）」から聴取できます。

富山シティエフエムは、富山市災害ボランティアネットワーク会議の構成団体であり、富山市と「臨時災害放送局開設に関する協定（緊急割り込み放送を含む）」を結んでいます。富山県防災士会も本年富山市災害ボランティアネットワーク会議の登録団体となりました。今後も防災活動に携わる「顔の見える関係」を構築していきます。尚、「臨時災害放送局」とは、大規模な災害時に、地方公共団体などが臨時かつ一時的の目的のための番組を持ち、災害情報を発信するFM放送局のことです。

（記 黒畑）

※平成29年4月から30年3月までの放送日と内容

放送日	再放送日	テーマ
4月3日	4月10日	日頃からの備え
5月1日	5月8日	災害で助かる判断と助からない行動とは
5月29日	6月5日	気象災害・豪雨災害
6月26日	7月3日	土砂災害に備える
7月24日	7月31日	防災訓練に参加しよう
8月21日	8月28日	地震への備え
9月18日	9月25日	地域の防災力とは？
10月16日	10月23日	家庭でできる防災対策
11月13日	11月20日	津波から身を守る
12月11日	12月18日	火災から身を守る
1月8日	1月15日	災害と企業継続（BCP）
2月5日	2月12日	災害に対する日頃の備え
3月5日	3月12日	東日本大震災を語る

Topics

8月18日に放映された「NHK ニュース富山人」の防災コーナーでは、荻生防災士から、ポリ袋を使った雨カップの作り方をご紹介いただきました。意外と見た目もオシャレかも。

《編集後記》

今年は「シェイクアウト訓練」を呼びかけた自治体も多かったと思ひます。まず低く、頭を守り、動かない、は基本ですが、実際はしがみついている机なども大きく上下左右に揺れます。震度6強以上の地震では建物倒壊の恐れもあります。立って居られない大きな揺れの時は、机にもぐるのを優先するのではなく、その場で「シェイクアウト」の姿勢で揺れが収まるのを待つことです。ぜひプラスの一言でお伝えください。（S）

